

お念仏と共に ～ 如来に念じられて生きていこう ～

私の心の 掲示板

他力
他力に生かされて
他力に支えられ
他力に励まされ
他力に助けられる

〔書・文〕丸野寿夫

何かを書くようにと言われ「他力」という言葉が浮かんできました。仏教で言われる「他力」とは、私には大変むずかしい言葉です。弥陀の本願については常々お説を頂きますが、只々煩惱の世界を迷うばかりで、八十三歳まで生かされております。今更修業も追いつかないと思いますが、お寺の門をくぐれば少しお許し頂けるかと思っておりますので、皆様よろしくお願い申し上げます。



謹賀新年

響流山勝福寺

如来さまの元旦

歸命無量寿如来

私を呼ぶ如来の声

はるか宇宙のはじめから

遠く十方の世界から

なのに

その声を聞きとるに

あまりに拙きわが耳よ

その願いを信受するに

あまりに頑ななわが心よ

あゝ……

南無阿弥陀仏

釋知道

ご門徒さん

ごんいち様は！

第二回

今回院内の北山に住ま
いの加来英司・周子ご夫妻
をお訪ねしました。

出会い

自宅の前を宇佐の台地
を潤す広瀬井手の水路が
通り、その下には津房川
が流れ、その奥には妙見
山が見える風光明媚な地
に今年86歳のご主人と7
歳年下の奥様が暮らして
おられます。そのお二人
は結婚して56年になるそ



うです。

周子さんは前坊守の妹
さんで、お二人の結婚の
仲を取り持ったのは亡く
なった勝福寺の老院さん
ということでした。お二
人の結婚のなれ染めは学
校を卒業すると国税庁に
就職なされ、仕事に没頭
していた英司さんにお嫁
さんを探していることを
知った老院さんが、自分
の奥さんの妹で幼稚園の
保母さんをしていた周子
さんを紹介したのが縁だ
そうです。老院さんが英
司さんに言われた決め台
詞は「わしの嫁さんの妹
だから絶対いい」だった
そうです。改めてお二人
を見ると老院さんの目に
狂いがなかったことにな

ただ敬服します。

そんな二人の新婚生活
は島原から始まったそう
です。その地での思い出
は吉永小百合の主演で映
画化された「まぼろしの
邪馬台国」の著者宮崎康
平氏との交流、目の不自
由な氏を自転車の後ろに
乗せて島原を走り廻った
こともあるそうです。英
司さんが歴史に関心が深
いのはこんなことが関
係しているのかもしれませ
ん。

在職中は数々の税務の
難題に対処していられた
英司さん、私生活でも近
所の方から出勤、帰宅の
時間が時計代わりと言わ
れるぐらい謹厳な生活を
過ごしていたそうです。

父母の思い出

お二人とも子供時代は
地元の宇佐でなく、英司
さんは大分や門司で育ち、
周子さんは東京で小学校
2年生まで過ごされ、お



父さんが50代で亡くなら
れたため、父の実家のあ
る宇佐市樋田に戻って来
られたそうです。6人兄
弟の5番目で和やかな明
るい家庭で育ったためか
醸し出される雰囲気は明
るくスマートなのが何と
なくわかるような気がし
ます。
英司さんは6人兄弟の
長子、妹さんが一人亡く
なりましたが、五人は元
気でご健在なのはお父さ
んが90歳、お母さんは96
歳まで長生きしたその血
筋を引いているからでしょ
う。そのお父さんは戦後、
若くして県庁を退職なさ
れ、院内に戻られて村の



行政に携わっていたそうです。家族は院内の自然の恵みの中で育ち、お母さんは子どもや近所の子どもたちを集めて劇のシナリオを書き、それをお父さんが監督するというとてもアカデミックな雰囲気の家だったそうです。

第二の人生

英司さんの父親は90歳目前で亡くなりましたが、信仰心が特別篤いわけではありませんでした。でも亡くなる前に「西の空に飛んでいくから」と言っ

た英司さんは、ゆっくり過ぎすには絶好の院内に戻られてお父さんが先鞭を付けた柚の栽培を引き継ぎ、その振興に力を注いでいます。

そんなご主人を「主人がアクセルなら私はブレーキ役」と56年間支えてきたのが周子さんです。院内に戻られてからもご主人と一緒に農業経験がないにも関わらず、ずっと手伝ってきたそうです。



院内の 家にはお舅さんと晩年はずっと寝たきりの生活だったお姑さんと一緒に住まれ、亡くなるまで自宅で介護されたそうです。

和やかな周子さんにさぞ癒されたご両親だったと思います。

私の信心

勝福寺に夫婦で通い始めて足かけ30年、英司さんと仏教の出会いが長崎勤務時代、仕事の合間に覗いたデパートの書籍売り場にあった「歎異抄・金子大栄著」が目に入り、購入したのが縁だそうです。

願うこと

最後に「次の世代に伝えたいこと」として英司さんに質問すると、父親はとて「守る」という意識が強い人だった。自分も父親の祖先を守る、つなぐという気持ちが大切にして生きてきたが、二人の娘たちにも「大切に守る、守る」という気持ちは大切にしてほしいが、この院内の家、土地を守り続けて欲しいという気持ちはそんなに強くない。それ以上に子供た

百日聴聞会の記録『私の「如是我聞」』に英司さんが書かれた文章の最後に「ナンマンダブツ」という項目があります。そこには「親鸞聖人は『ナンマンダブツ』を丸飲みしている。教行信証との間にどのよ

うに消化されたのか知りたい」と感想が書かれています。そんな英司さんがたどり着いた「信心」とは

本山御正忌報恩講にお参りして

松本順 (宇佐市大塚)

松本順さんが日豊教区主催の本山報恩講の奉仕団に参加されましたので、その時の感想を書いて頂きました。



11月20日〜22日まで、真宗本廟報恩講奉仕団の一員として京都東本願寺の報恩講にお参りして頂きました。

日には絵解きによって親鸞聖人の生涯の歩みを分かり易く解説して頂きました。

本山参りも今回で3回目となります。最初は親鸞聖人御遠忌、2回目は推進員研修、そして今回は奉仕団として報恩講にお参りさせて頂きました。今回も2泊3日で、3日目は親鸞聖人の生涯の歩みの地を見学しました。

21日は、讃仰法要(音楽法要)でした。着座曲に始まり三帰依文・正信偈・念仏・和讃など全部で13曲を90分にわたって歌って下さいました。宗祖親鸞聖人の御恩に讃嘆と感謝の気持ちを表したもので、僧侶の方と門徒さんが共に歌われ、これまでの努力と歌声に感動いたしました。

22日は、親鸞聖人のお骨を納めている大谷祖廟にお参りし、続いて親鸞聖人がお生まれになった日野の里に行き、法界寺の阿弥陀座像の説明を聞き、職人さんの思いと高度な技術力にただただ感心いたしました。

今回、本山報恩講にお参りして、テーマの「今、いのちがあなたを生きさせている」を自分なりに考えてみました。「同朋新聞」の11月号にあったアイヌのカムイの存在の中の一説に「人間を中心として自然を見るのではなく、自然の中に『人間』という存在を受け止められている」とあり、そのことを自分なりに考えた時どうであろうかと思うと、私は今、大地の上に本当の意味で立っているのだから、私たちが生きて行くうえで目に見えない大きな恵を受けていることを忘れてはいけないのだらうかと思えます。

生命を守る必要なものを守り、自然や大地から無償で頂いていることを忘れてはいけない、それは、空気であり、水であり、大地であり、その他にも多くの命であると思えます。宇宙から私たちを見ると点にも及ばない存在だと思いが、今の私を考えた時、わがままな自分がいてほんとうに親鸞聖人が申している仏法を真剣に考えているだろうか、自分の考えを強調し、正義感だけを主張してはいないだろうか、愚の大地に立った凡夫として人間関係を築こうとしているかなど自問自答した時、我欲をすて自分に対する見方・考え方を変えるのも大切ではないか身にしみて感じております。

今回一緒に参加された皆様と新たな出会いがあったのも何かの縁だと思えます。ありがとうございます。南無阿弥陀仏

想い出の味

麻生民子 (四日市)



勝福寺の庭のドンダグリの実を見てふと思いつきました。堅木の実どんぐりで作ったイギス(親達はこう言っていました)です。12月の冬祭りには必ずこの一皿が付いていました。秋になり、実を拾い乾かして木の臼に入れて砕き、外皮をフルイで取除き、実を出来るだけ粉になるように杵で搗き、さらしように袋に入れて水の中で澱粉を落とす沈殿させます。上澄液を捨て、水を入れ替える事を何日も繰り返して、しっかりとあくが抜けたら鍋を火にかけ、良く練り上げバットに移し、固まったら切り分けて酔味噌で食べてみました。独特のプルプル感は今でも、古里や親を思い出す忘れられない味です。



勝福寺仏教婦人会の活動について



若林 範子 (宇佐市江須賀)

勝福寺仏教婦人会(かはづの会)は平成11年12月22日に25名で、お寺が聞法(おんぽう)の場、安らぎの場になうように、仏法を中心として和合向上のある婦人会を作る思いで、

- 一. 聞法(仏法に親しみ人生を味わい直す)
- 二. 報謝(清掃や接待)
- 三. 親睦(懇親会や研修旅行)

この三つの柱を立て発足しました。役員の任期は三年で総会で選出されます。平成25年の総会で松尾会長、若林副会長、佐藤

藤會計で皆さんに助けられ一年半が経とうとしています。やっと年間の行事がどうにか分かりました。現在、坊守さんを入れて41名の会員です。年間行事とは7月に総会、前年度の反省、今年度の行事決めに始まります。

●7月中旬頃「戦争・原発ホウキ」作りを3〜4日で約300ヶ作りました。

●8月15日、平和の鐘を搗く集いでお茶やお菓子をふるまい、戦争ホウキの葉を配り、沢山の方の参加を募っています。

●春と秋の彼岸会の時のお掃除とおやつ作りは何が喜ばれるか頭を悩ませながら、皆さんで作っています。

●報謝のおそうじは年8回、朝2時間位で後はお茶会で住職さんや坊守さん



●お寺の台所がともきれいに使いやすくなりました。

●そこで會員さんの得意なものを習うことになりました。

●第一回目は12月9日松尾さんにロールケイキ、若林が大根もちを作り、皆でおいしくいただきました。

●勝福寺報恩講では、おそうじ、おみがき、お花立て、おけそく、お齋作りと総代さん御門徒の方々と楽しく笑い声が絶えません。

●二年に一度の泊研修旅行があります。今年度はその年です。どこが良いか検討中です。どなたでも参加できますので楽しみに参加下さい。

●宇佐組の婦人研修会も年3回、他寺のご門徒さんとも顔なじみのかたも出来ました。

●ごきぶりダンゴ作りもあり、とても効き目が良いです。

●これからも、皆さんに助けて頂きながら、役員共々一緒に婦人会を盛り立てて行きましょう。私もこのご縁をいただいて任期を努めて行きたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

●二年に一度の泊研修旅行があります。今年度はその年です。どこが良いか検討中です。どなたでも参加できますので楽しみに参加下さい。

●宇佐組の婦人研修会も年3回、他寺のご門徒さんとも顔なじみのかたも出来ました。

●ごきぶりダンゴ作りもあり、とても効き目が良いです。

●これからも、皆さんに助けて頂きながら、役員共々一緒に婦人会を盛り立てて行きましょう。私もこのご縁をいただいて任期を努めて行きたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。



二〇一六年度行事予定

報恩講(鍵主良敬先生)  
1月22日〜24日

春彼岸会(川村妙慶先生)  
3月25・26日

秋彼岸会(住職・坊守)  
10月7・8日

御名を聞く会  
毎月28日13時半  
正信偈・和讃に学ぶ

はじめの一步  
毎月一回(日時不定)  
仏教入門の茶話会

汝自当知の会  
毎月一回(日時不定)  
仏教考究の集い

子供会  
・冬休み ・春休み  
・夏休み

研修旅行  
5月中旬予定  
宇佐組コーラス

第二第四月曜練習  
仏教賛歌を楽しく

『ナンマンダブツ』

現在、勝福寺の推し進められている和孝さんは趣味でいろいろな場所をウォーキングで歩いておられます。今年も3月から4月にかけて四国霊場のお遍路をなさいました。その道中での体験を書いて頂きました。

●三月二十一日午前、月忌の御参りを済ませ、直後に三家族の娘と孫達に見送られながら四国遍路に出立した。

趣味の一環でもあったが、丁度妻が亡くなって三年が経過するのを機に、心の内を整理してみたい(空っぽになれたら)想いであつた。

●初日二十二日七時、いよいよ千二百km、不安(遍路転がし・山有り谷有り・寺寺間最大八十二km・宿・食事・等々)と期待が混ざった一歩が始まった。



●三日目、いよいよ遍路転がしだ。御宝号『南無遍照金剛』と唱えながらきつい峠路を二つ越えて標高七百mの十二番札所焼山寺にやっと辿り着く。

●八日目、二十三番札所には善根宿・種々の休憩所、軒下を利用する為の寝袋も用意はしている。

●一〜二日目、一番から十一番札所まで滑り出し順調、あまり高低差も無く長閑な吉野川沿いを歩く。札所では山門にて合掌一礼する。本堂と太子堂の二ヶ所で線香・蠟燭・納め札・賽銭を納め合掌礼拝しお経を唱える。

●その後納経所で御宝印を頂き山門にて合掌一礼して退出。この様に札所一ヶ所で二回はお経を唱えることになり。

●三日目、いよいよ遍路転がしだ。御宝号『南無遍照金剛』と唱えながらきつい峠路を二つ越えて標高七百mの十二番札所焼山寺にやっと辿り着く。

●八日目、二十三番札所

の予定、鼻歌調子で歩いているつもりが、あれ、ナンマンダブツ、々々、々々、々と、いつの間にか唱えていた。この時の感覚を旨く語ることは出来ないが、ナンマンダブツだけの瞬間。不思議な気分の日であつた。

●三十八日間で結願し、四十日目に高野山に着、今回の遍路を終えた。

釈 優和 (四日市小菊町)

計画とまでは言えないが大雑把には、一日約三十km歩き四十日間で八十八番札所で結願する予定にして、宿(宿坊・民宿・旅館・ビジネスH)は二〜三日前に確保する事にした。宿が取れなかった時

●二年に一度の泊研修旅行があります。今年度はその年です。どこが良いか検討中です。どなたでも参加できますので楽しみに参加下さい。

●宇佐組の婦人研修会も年3回、他寺のご門徒さんとも顔なじみのかたも出来ました。

●ごきぶりダンゴ作りもあり、とても効き目が良いです。

●これからも、皆さんに助けて頂きながら、役員共々一緒に婦人会を盛り立てて行きましょう。私もこのご縁をいただいて任期を努めて行きたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

●二年に一度の泊研修旅行があります。今年度はその年です。どこが良いか検討中です。どなたでも参加できますので楽しみに参加下さい。

●宇佐組の婦人研修会も年3回、他寺のご門徒さんとも顔なじみのかたも出来ました。

●ごきぶりダンゴ作りもあり、とても効き目が良いです。

●これからも、皆さんに助けて頂きながら、役員共々一緒に婦人会を盛り立てて行きましょう。私もこのご縁をいただいて任期を努めて行きたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。



高知桂浜にて 04 04 2015 10:54



仏法を聞く仲間

藤谷 信 (勝福寺)



私は今、大谷専修学院で真宗の教えに触れさせて頂いており、約九ヶ月が経過したところです。

私にとって、仏法とは「よくわからない、現実的ではないもの」でありました。仏法は、特定の人にしか何かをもたらさないものであり、私には必要としないものだと考えて生きてきました。

私が学院に入学し、一学期を終えた時には、寮生活などにも疲れていたのもあるのですが、「なんだかよく分からないことばかり言って、人を

迷わせているだけなんじゃないか」と思っていました。

その一方で、「そうだな」と、うなずかされる部分もありました。それは、具体的に、こういう言葉や理屈です、とは言えませんが。ちりも積もれば、ではないが、積もったものと、生活での体験で、うなずかされる感じでありました。

二学期に入り、徐々に「教え」が、それは仏教用語であったり、仏教を学ぶ人の言葉やすがたであったり、周りの人の言葉やすがたを通して、スツと入ってくるもの、頼らせてもらえるものともなりました。日々の生活、他者との関係における私の姿勢を自然と開かれたものとしてくれるものとなっていていっていると感じています。

悩みというものは、人では起こってこない、関係性の上で起こってくる

ると思います。全く一人の世界に生まれてきたわけではないので、一人の世界に閉じ籠もろうとしても、孤独の苦しみがあ

り、生きれません。一人で生きていられるものとの関係があるでしょう。

『歎異抄』の第一章に、「弥陀の誓願不思議にたすけられまいらせて、往生をばとぐるなりと信じて念仏もうさんとおもいたつころのおこるとき、すなわち撰取不捨の利益にあずけしめたまうなり。……そのゆえは、罪悪深重煩惱熾盛の衆生をたすけんがための願にてまします」とあります。

私は、私個人ではなく、「衆生」と表現される、他者とのつながりの中で生きていく者であり、その「私」も「他者」も同じようにたすけられる者であります。私が思えていない、気づけていない(不思議)

にもかかわらず、「他者」にたすけられてもいるようです。だから、そこに身をあずけ、「他者」と共に歩んでいるのだと知らされ、「他者」とわかり合える、通じ合える、と信じて一歩を踏み出した

と思います。そうして一歩踏み出すと、苦悩も増えますが、しかし、その苦悩すらも共に感じてもらえるので、また一歩踏み出し、苦悩を吐露してみる。そして、共に喜べる、本当に喜べる。一人で喜んでいる時は、共感がなく、どこか物悲しい。他者にとびこむと、共に生きていくこと、その喜びを頂けると、思います。私だけではなく、学院生の表情や雰囲気も、柔らかくなってきたように感じています。

そこには、仏法があるのかなあ、と感じています。これからお見守りください。

おきのこと

松田 淳 中津市三光株小学校五年



冬休み工作

お寺で夏、泳いだり、焼き肉をしてもらってありがたうございます。友達ができたとし、来年もいきたいです。たつきりけいこくでは魚もとれたし、危険なへびもいました。松じゅん2号(※)がへびをたいじしてくれました。来年はおとうとの将といっしょにいたいです。ずっとあ

りがとうございました。 ※松じゅん2号とは 松本順さんです。



真宗門徒のまめ知識



「除夜の鐘」と「修正会」

「除夜の鐘」の数は、われらが煩惱(ねたみ・うらみ・いかり・むさぼり・ぐち)の数(百八)だという。

煩惱が子を産み、子が孫を産む果てのない煩惱の連鎖に苦しんでいるのが私達でないでしょうか。その煩惱の一つ一つを「ゴーン」と撞いては「その通りです」「これが私」と頷いて合掌し、それを手放していくと、こんな邪見驕慢(間違った見方をして高上がっている)な私を生かして下さっている世界に掌が合わされる新しい朝(元旦)がやってきます。

その元旦のおつとめを「修正会」といって、常に軌道修正をして「南無阿弥陀仏」と大悲の御名を申しつつ生きる、二〇一六年のスタートです。

- ☆ 除夜の鐘 三十一日二十三時四十五分から
☆ 修正会は一月一日午後一時より。「正信偈」「念仏」「和讃」「年頭挨拶」その後会食。皆様お参り下さい。

勝福寺報 恩講

\* 当番は豊川地区です

- 日時 一月二十二日(金)〜二十四日(日)
昼席(午後一時) 夜席(午後七時半)
講師 鍵主良敬先生(二十三日昼〜二十四日昼)
\* 二十三日は住職が勤めます。
お斎 二十三日、二十四日 午前十一時半から

長かった工事も終わり、いよいよ来春、宗祖親鸞聖人の七百五十回御遠忌法要が厳修されます。勝福寺は、四月二十三日(土)にお参りします。左記のように参加者を募集していますので、ふるってご応募ください。

団体参拝 定員 九十名(先着順)

冥加金 二千元(お斎・記念品付)

稚児(チラシのような昔の衣装を着て町を練り歩きます)

冥加金 一万元(貸衣装・記念品代)

帰敬式(御門首よりおかみそりを受け仏弟子になります)

冥加金 一万二千元

\* 詳しくはお寺にお尋ねください。



〈編集後記〉

新聞の編集で、「ご門徒さんこんにちは」のインタビューを二回経験しました。お寺に通い始めてまだ二年という私には先輩のお話を伺うことが貴重な聞法だと思っています。その積み重ねで親鸞聖人の教えに少しでも近寄れるのではないかと期待しています。

そんなうれしい体験のできる機会を頂いたことに感謝しながら、次はどんな方のお話が聞けるか楽しみにしています。

そして、その楽しみを自分だけのものにならないよう門信徒の皆さんにいろんな情報と一緒に発信できればと思っています。

取材で皆さんのところにおじゃますることもありますが、もしもありませんが、その節はいろんなお話をお聞かせ下さい。よろしくお願ひします。

渡辺 重昭